

1 親しみやすい便利な庁舎



市民の利便性の向上を図り、だれもが快適で安全に利用できる庁舎とするため、機能的な窓口環境の整備、バリアフリー・ユニバーサルデザインの積極的な導入を目指します。また、将来の変化に柔軟な対応が可能で、効率的な行政運営が維持できる新庁舎を目指します。

2 交流によるまちづくりの拠点となる庁舎



近年では、市民と行政と一緒に取り組むまちづくりが求められています。市民との協働によるまちづくりを更に推進するため、多くの市民が新庁舎に集い、本市の一体的なまちづくりの拠点としての役割を果たせる新庁舎を目指します。

3 防災拠点となり、市民の安全を守る庁舎



いつ発生するか分からない地震などの災害から市民の安全を守るため、災害に備えた機能の充実を目指します。また、平時・災害時を問わず、市民の安全、安心、個人情報などを守るため、充実したセキュリティ機能の整備を目指します。

5つの基本方針

基本構想にさらに検討を加え、新庁舎整備における基本方針を次の5つに整理しました。

4 環境負荷の低減に配慮した経済的で効率的な庁舎



低炭素社会の実現に向けて、二酸化炭素排出量の削減、環境負荷の低減などを積極的に推進し、ライフサイクルコスト^{*}の削減を図ります。また、可能な限り緑化の推進を図り、市民がゆとりとやすらぎを感じることが出来る空間を目指します。
ライフサイクルコスト：建物の設計、建設、維持管理など、建物を建てる前から解体するまでの期間に要する費用

5 市民に開かれた庁舎



地方分権が進み、政策形成の過程で、市民と行政の連携・協力が求められています。情報通信技術を活用し、市民に分かりやすい情報発信をすることで、市民がこれまで以上に市政を身近に感じ、市政・議会活動に興味・関心を持つことができる新庁舎を目指します。



新庁舎建設基本計画(素案)がまとまりました ～皆さんの意見をお聞かせください～

基本計画：基本構想を踏まえ、新庁舎の建設に向けたより具体的な方向性、整備に関する基本方針などを示すもの

どこに、どんな庁舎が建てられるの？

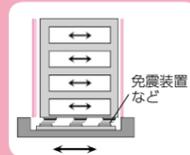
良好な交通アクセス

建設計画地は、那須塩原駅から直線で約500mの距離、都市計画道路3・3・6弥六通りに面した場所に位置しています。那須塩原市地域バス「ゆーバス」や民間バス、電車、タクシーなど、さまざまな交通機関が利用でき、交通のアクセスが非常によい場所になっています。



「免震構造」を採用し、安全性を第一に

新庁舎は、市民の安全・安心な暮らしを守るため、いつ発生するか分からない自然災害に備え、災害時に庁舎の安全性・機能性を最大限に維持できる「免震構造」を採用します。



免震構造とは、建物と基礎の間に免震装置などを配置し、地震の揺れを直接建物に伝えない構造。ほとんどの衝撃が免震層で吸収され、免震装置のゆったりとした揺れに置換される。

窓口利用が便利な構成に

①窓口機能 利便性やバリアフリーに配慮し、なるべく多くの部署を1階に集約して配置します。
 ②市民交流スペース イベント開催時に敷地内の緑地と連携して活用するため1階に配置します。
 ③議会機能 議場に高さや広さを有した空間を確保するため、最上階に配置します。
 ④行政事務機能 社会情勢の変化に呼応した行政サービスを提供するため、業務に関連が深い部局を集約して配置します。



利便性を確保し、周辺環境へも配慮

新庁舎の敷地面積と延べ床面積、敷地内の駐車場の台数は次の通りです。また、確定申告時など来庁者が多い時期には、臨時駐車場を敷地内に確保できるよう計画します。



平 成17年1月1日に黒磯市、西那須野町、塩原町の旧1市2町が合併し、誕生した那須塩原市。合併時の協定では、新庁舎を建設する位置は那須塩原駅周辺としており、この協定に基づき、庁内での協議、検討、調査などを進めてきました。
 平成26年度には有識者、市内各種団体の代表者、公募の市民などで構成する庁舎建設市民検討懇談会を設置。新庁舎に求めるサービス内容、新庁舎を拠点としたまちづくり、新庁舎の整備位置や整備時期などの検討を始めました。また、市議会でも庁舎建設検討特別委員会を立ち上げ、先進事例の視察などを実施。平成27年3月には、市民アンケートやパブリックコメント、市民検討懇談会、特別委員会、市議会からの提言を踏まえ、新庁舎建設における基本的な考え方を示す「新庁舎建設基本構想」を策定しました。

東 京オリンピック・パラリンピックなどの影響による建築費や労務単価の高騰が伝えられるとともに、合併特例債の発行可能期間も2024年度まで延長。それらを踏まえ、建設時期はオリンピック以降に延期することが適当と判断した経過もあります。しかしながら、第2次総合計画に掲



11月2日に開催した庁舎建設市民検討懇談会の様子。自治会や経済団体の代表者など16人の委員が意見を交わしている。

げる県北の中心都市にふさわしい拠点づくり、同計画の将来像「人がつながり、新しい力が湧きあがるまち 那須塩原」を具現化するためには、新庁舎の建設は核となる事業であり、欠かせない施設。そこで、新庁舎建設の着実な推進が必要と判断し、市民の皆さんの意見を聴きながら、新庁舎建設の具体的な方向性や整備の基本方針などを検討してきました。
 このたび、それらをまとめた「新庁舎建設基本計画」の素案を策定しました。より良い新庁舎を建設するため、皆さんの意見を募集しています(詳細は14ページ下部を参照)。今後は、頂いた意見を参考にし、新庁舎建設基本計画としてまとめます。